

経 歴 書 (1)

ふりがな 氏 名	なかむら かずひこ 中 村 和 彦		
生年月日 (就任時現在年齢)	1960年 3月 1日 (63歳)		
最 終 学 歴 (学 位)	筑波大学大学院修士課程体育研究科教育学専攻 体育学修士 (筑波大学)		
専 門 分 野	教育学、発育発達学		
現 職 (始 期)	山梨大学理事 (教学・国際交流担当)、副学長、教育国際化推進機構長 (2021年4月)		
年 月 ~	年 月	学 歴 (高卒以上)	
1975 4 ~	1978 3	山梨県立甲府第一高等学校 卒業	
1978 4 ~	1982 3	山梨大学教育学部芸術体育学科 卒業	
1982 4 ~	1984 3	山梨大学教育学部研究生	
1984 4 ~	1986 3	筑波大学大学院修士課程体育研究科健康教育学専攻 修了	
1992 4 ~	2002 3	山梨医科大学医学部研究生 (保健学Ⅱ)	
年 月 ~	年 月	職 歴	
1986 5 ~	1989 3	筑波大学体育センター 文部技官	
1989 4 ~	1991 3	山梨大学教育学部 助手	
1991 4 ~	1993 3	山梨大学教育学部 講師	
1993 4 ~	2007 3	山梨大学教育学部・教育人間科学部 助教授	
2007 4 ~	2011 3	山梨大学教育人間科学部 准教授	
2011 4 ~	2012 3	山梨大学教育人間科学部 教授	
2012 4 ~	2014 9	山梨大学大学院教育学研究科 教授	
2014 10 ~	2015 3	山梨大学大学院総合研究部教育人間科学域 教授	
2015 4 ~	2021 3	山梨大学大学院総合研究部教育人間科学域長・教育学域長	
2015 4 ~	2021 3	山梨大学教育人間科学部長・教育学部長	
2015 4 ~	2021 3	山梨大学大学院教育学研究科長	
2021 4 ~		山梨大学 理事 (教学・国際交流担当)、副学長 現在に至る	
その他特記事項			

経 歴 書 (2)

年	月	賞 罰
2002	11	日本体育協会日本スポーツ少年団功労賞
2008	8	山梨県体育協会功労賞
2009	3	日本発育発達学会優秀研究論文賞
2014	3	山梨大学優秀教員奨励制度特別表彰
2014	11	福島県郡山市東日本大震災からの復旧、復興の功績にかかわる表彰
管理・運営経験と内容（項目ごとに箇条書き・10項目以内）		
<p>【大学における管理・運営経験】</p> <p>1. <u>国立大学法人山梨大学理事・副学長（2021年4月～現在）</u> 教学・国際交流担当理事として、全学の教育活動、及び国際交流活動を統括している。</p> <p>2. <u>山梨大学教育国際化推進機構長兼任（2021年4月～現在）</u> 全学の教育に関わる教育国際化推進機構を統括するとともに、戦略的な機構改革を推進している。</p> <p>3. <u>山梨大学大学院教育人間科学域長・教育学域長兼任（2015年4月～2021年3月）</u> 教員の人事マネジメント、研究マネジメント及び予算決算など学域の円滑な運営に努めた。</p> <p>4. <u>山梨大学教育人間科学部長・教育学部長兼任（2015年4月～2021年3月）</u> 教員養成に特化して様々な教職支援に取り組み、教員就職率向上に多大な成果をあげた。</p> <p>5. <u>山梨大学大学院教育学研究科長兼任（2015年4月～2021年3月）</u> 全国の教員養成学部在先駆けて教職大学院に特化し、大学院教育学研究科修士課程を廃止した。</p> <p>【大学以外での管理・運営経験】</p> <p>6. <u>日本教育大学協会関東地区会長・全国理事兼任（2017年4月～2018年3月）</u> 関東地区の13国立教員養成学部・大学を統括し、教員育成に関する課題解決に尽力した。</p> <p>7. <u>日本トップリーグ連携機構常務理事（2021年～現在）</u> 日本のトップスポーツを牽引する当機構において、子どもの育成に関する事業を統括している。</p> <p>8. <u>（財）日本レクリエーション協会理事（2019年4月～現在）</u> わが国のレクリエーション活動において、子どもの遊び・運動に関する事業に寄与している。</p> <p>9. <u>山梨県教育委員会少人数教育推進検討委員会委員長（2019年7月～2021年3月）</u> 少人数学級の推進に向けた審議を取りまとめ、全国初の25人学級の導入に至った。</p> <p>10. <u>山梨県高等学校審議会会長（2018年6月～2019年8月）</u> 山梨県における高等教育制度の見直しと、県立高校の長期構想策定に関する審議をとりまとめた。</p>		

経 歴 書 (3)

研究上の業績 (代表的な著書・論文10編以内・年代の新しい順)

【著書・論文は、「名称、著者名、共著/単著、発表年月日、発行所等の名称」の順に記載】

1. 幼少年期の子どものスポーツ活動に対する保護者の期待, 長野康平・中村和彦他, 共著, 2021年3月, レジャー・レクリエーション研究
2. 園庭での自由遊びにおける基本的な動きの特徴: 身体活動量の違いによる検討, 篠原俊明・中村和彦他, 共著, 2020年9月, 日本幼少児健康教育学会誌
3. 室内遊具が幼児の基本的な動きの質的変容に及ぼす影響, 篠原俊明・中村和彦他, 共著, 2019年11月, 発育発達研究
4. 低線量放射線環境下にある幼児の体力・運動能力向上のための取組に関する縦断的研究(4), 中村和彦他, 共著, 2017年4月, SSF(笹川スポーツ財団)スポーツ政策研究
5. 子どもの遊び・運動・スポーツ, 8章 健やかな子どもを育むために, 中村和彦, 単著・分担, 2015年1月, 市村出版
6. 運動神経がよくなる本, 中村和彦, 単著, 2011年4月, マキノ出版
7. 観察的評価法による幼児の基本的動作様式の発達, 中村和彦他, 共著, 2011年3月, 発育発達研究
8. 子どものからだが危ない 今日からできるからだづくり, 中村和彦, 単著, 2004年8月, 日本標準
9. 成人期以降の日常生活動作に関する発達バイオメカニクス, 中村和彦他, 共著, 1999年4月, バイオメカニクス研究概論
10. 児童における「捕一投の運動組合せ」の発達に関する縦断的な研究, 中村和彦他, 共著, 1997年3月, 身体運動のバイオメカニクス

主な業績数合計(上記を除く): 論文 145件、著書 38件、総説・解説等 46件

その他の業績 (社会貢献に係る業績、職務上の業績等 (特許等を含む) ・10項目以内・年代の新しい順)

1. 山梨県公立大学法人評価委員会委員として、山梨県立大学の教育・研究・地域貢献・経営等についての業務実績に関する評価に携わっている。(2022年2月～現在)
2. 山梨県知事政策局「自己肯定感を育む地域社会を考える懇談会」座長として、県内の有識者とともに、高い自己肯定感を育てている山梨教育の要因分析と、県民一人ひとりが自己肯定感を高めていける地域づくりの施策を提案した。(2021年7月～2021年9月)
3. 文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会委員として、大学及び学部への設置に関する審議に携わった。(2017年11月～2021年10月)
4. 文部科学省スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員として、幼児期・青少年期における運動実施率の向上に関する政策決定に携わった。(2017年9月～2019年11月)
5. 山梨県教員育成協議会委員として、教員の養成・研修等について審議し、教員の資質・能力の向上を目指した「やまなし教員等育成指標」の作成に寄与した。(2017年7月～2021年3月)
6. 文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会スポーツ振興に関する特別委員会委員として、青少年のスポーツ振興の課題について審議し、施策立案に貢献した。(2007年4月～2011年3月)
7. 文部科学省中央教育審議会教育課程部会専門部会委員として、学校教育課程における教科・領域の編成とその教育内容について審議し、学習指導要領の改訂に携わった。
(2004年10月～2008年3月)(2015年10月～2018年3月)の2期に渡り委員に就任
8. (財)日本オリンピック委員会ゴールドプラン専門委員会委員として、発達段階に合った青少年スポーツの在り方をもとに、競技力向上のための方策の立案と、事業の推進に携わった。
(2004年6月～2008年3月)
9. 日本放送協会(NHK)番組名「からだであそぼ」「あさだからだ」監修者として、幼少児を対象とした、遊びを通して様々な基本的な動きの習得を促す全国放送番組を企画・監修した。
(2004年4月～2010年3月)
10. 日本発育発達学会理事・機関誌編集委員として、学会の管理重営、機関誌の編集発行に寄与した。
(2003年9月～2017年8月)

主な業績数合計(上記を除く): 384件